



# 日本植物分類学会 ニュースレター

No. 90

Aug 2023

## 目次

○お知らせ

国際植物分類学シンポジウム

”The 10<sup>th</sup> East Asian Plant Diversity and Conservation  
2023”のご案内・・・・・・・・・・ 2

2023年度日本植物分類学会講演会のお知らせ・・・・・・・・ 4

第23回（2024年度）日本植物分類学会賞

（学会賞および奨励賞）の受賞候補者の募集・・・・・・・・ 4

植物関連雑誌のタイトル紹介・・・・・・・・ 5

○書評

和文 梅林正芳／著 山中典和／序文・校閲

「日本産樹木実生図譜」・・・・・・・・ 10

島野 智之・脇 司／編著 岩波書店／

「新種発見物語 一足元から深海まで11人の研究者が行く！」  
・・・・・・・・ 11

○会員消息・・・・・・・・ 12

## 書評

### 日本産樹木実生図譜

Drawings of seedlings of Japanese woody plants

和文 梅林正芳／著 山中典和／序文・校閲

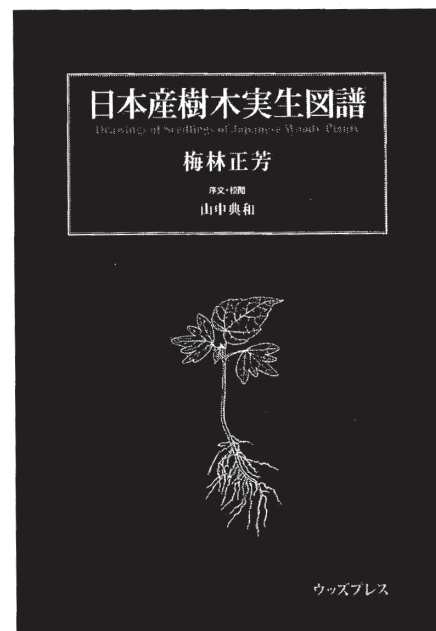
ウッズプレス 価格：16500 円（本体価格 15000 円+税）

A4 判 509 ページ 2023 年 3 月

山田 敏弘（北海道大学理学研究院）

本書は日本の本州，四国，九州に自生する 79 科（裸子植物 6 科，被子植物 73 科 414 種（亜種，変種，品種含む）の木本植物の実生に関する図譜である。野外に見られる実生を同定することを主な目的としたものであり，前半に実生の検索表，後半に著者が 30 年弱をかけて書き溜めた詳細な植物図が示されている。検索表は，地表面に対する子葉の位置，上胚軸伸長の程度，初生葉の葉序・単葉／複葉の別を上位の指標形質とし，子葉，初生葉，茎などの形質が下位の指標形質として用いられている。植物図には，指標形質となる特徴の詳細のほか，根系を含む実生の全体像が示されている。子葉や初生葉の図には，脈序が精緻に示されているため，脈序に基づいて同定を行う古植物学者としては大変ありがたい。巻末には，「序文」の引用文献として，日本産植物の実生に関する文献がリストされており，より詳しく実生について知りたい場合に役立つ。

図鑑は使ってみないと評価できないので，本書を片手に大学構内で実生を探してみたところ，ケヤキ，ナナカマド，ハルニレ，イタヤカエデは検索表を基に同定できた。母樹の根元に同じ特徴を持つ個体が複数生えていたので，これらの同定はおそらく正しいだろう（分子同定して検証する根性がなかったため，あしからず）。しかし，本書で指標形質となっている上胚軸伸長の程度は，やや判断に困った。今回の探索は春先に行ったということもあり，上胚軸が伸び切っ



いないというような事情もあるかもしれない。また、指標形質のいくつかには、ばらつきがあるように感じた。実生図鑑というのはそれほど前例がないので、「まえがき」で著者が書いているように、指標形質の選択は難しい問題である。今後の実生研究の進展とともに、指標形質が洗練されていくことを期待したい。

ともあれ、本書に示された実生の多様さには驚くべきものがあり、「実生」の研究が新しい多様性研究へと育っていくことを強く予感させる。是非、多くの植物研究者に本書を読んでいただきたいと思う。

#### 注記

紹介記事の掲載にあたっては、日本植物分類学会の許諾、および紹介執筆者の了解を得ていますので、本記事の無断転載はお控えください。なお、紹介記事の部分のみを表示していますので、その点をご了承ください。(ウヅプレス記)